

ドイツを3-1撃破 平昌一番乗り

小野五輪弾



ドイツに勝ち、笑顔を見せるスマイルジャパン。中央は主将の大沢。手前右から2人目が小野=12日、苫小牧市の白鳥王子アイスアリーナ

【苫小牧】アイスホッケー女子の平昌五輪最終予選D組の最終日は12日、苫小牧市の白鳥王子アイスアリーナで行われた。日本（スマイルジャパン）、世界ランキング7位はドイツ（同8位）に3-1で競り勝ち、3戦全勝の勝ち点9として2大会連続3度目の五輪出場を決めた。小野選手（フルタイムシスデム御影クリニック）は第2ピリオドに大会2得点目となる貴重な1ゴールを挙げ、勝利に貢献した。第2日の11日にフランス（同12位）を4-1で破った2連勝で臨んだ日本は、攻守にスピーディなプレーを展開。久保英恵（西武）の3試合連続の5得点目となるゴールで加算し、2014年のソチ五輪（ロシア）で2連敗したドイツの反撃を1点で抑えて優勝した。

アイスホッケー女子最終予選



ドイツ戦の第2ピリオド、ゴールを決めガッツポーズする小野（中央）

「胸トラップから技ありゴール」

ショーパー五輪の最終予選に出場したが、夢の舞台には届かなかった。09年に西武などでプレーした豊さんと結婚を機に清水町に移り住んだ。代表復帰は全く考えていなかったが、14年のソチ五輪での久保らの奮闘に感銘。15年に返り咲いた。一休格差はコントロールできない。日本が勝つにはスピードと後半でも落ちないスタミナが必要（山中監督）。苦しい陸上トレーニングにも耐えた。「ずっと後悔してきた。小野にはどうしても忘れられない試合がある。トリノ五輪最終予選の最終戦。引き分け以上で本大会出場が決まるロシア戦で2-1で惜敗した。5人対3人のパワープレーで、ワンタッチさえすればゴールできた自分への絶対のパスに合わせることができなかった。この日の得点で「良い記憶に変わった」



試合後、涙が止まらない小野

久保「神ってる」 3試合5Gの活躍

▽:GK藤本 那がゴール前で存在感を発揮した。第1ピリオド、相手のパワープレーが続いた時間帯に好セーブを連続して得点を許さなかった。この試合の日本側の最優秀選手に選ばれた。五輪出場を決めた直後には涙を見せ、「うれし泣きはしたことがない。勝ちにつなげられてよかったと喜んだ。」

GK藤本那 好守連発

日本の山中武司監督46の話。一番でベストゲームをしてくれた選手たちを誇りに思う。体を張ってくれた。全員の勝利。誰一人欠けても駄目だった。自分たち信じた

同・大沢ちほ主将 最高、苦しい時間帯もあったが自分たちの力を信じて戦った。これがゴールではない。五輪で勝つために走り続けた。

復帰のベテラン夢つかむ

311人の大観衆が声を震わせる勝利までの10カウント。優勝が決まった瞬間、小野選手は歓喜の声を上げて好守のGK藤本那（ホルテックス札幌）に駆け寄った。小野にとって4大会（8シーズン）ぶり2度目の五輪最終予選。味わい続けた悔しさから解放されたリンク上へ号泣した。「日本代表に戻ってこれた良かった。チームメイトと色々話した。2-1と突進してきた。練習通り。細山田とは、ゴールへの角度がなければ私に当たっていいからと事前に話合っていた」と振り返った。山中武司監督は「相手のFWを抑制する役割も担いながら、決めるべきところでよく決めてくれた」と絶賛した。1点を返されたが、西武時代の盟友で1歳下の久保英恵が第3P14分、床塚留司（西武）がフェースオフからのバックを豪快にゴ

武田、近藤、志賀も号泣



1999年に日本代表入り。2002年のソチ五輪のドレイトイス（現西武）の一角に始まり、トリノ、パ

「一番の理解者であり指導者の豊さんを始め、多くの人に支えられてきた。元日本リーグ選手の大田博樹さんが代表のそばでアルバート・「ホツケ」に合せてシフトを組んでくれる」と感謝する。メンバー入りしながら3試合ともベンチに入れなかったGKの近藤真衣、リザーブとして支えた武田利奈と志賀菜穂を擁するチーム最年長。「また五輪のリンクに立つたわけではない。今後も代表には選ばれるように、バックコントロールなどから見直してレベルアップしたい」と気を引き締めていた。

▽:FW久保が大一番でも点取り屋の働きを見せた。追加点が欲しい時間帯で抜群の感覚を働かせた。

最終予選の全3試合でゴールを決めて計5得点。五輪出場に大きく貢献した。大田自身で驚かされた。自分自身で驚かされた。自分が生かすことができなかった。全力は尽くした。

ドイツのベンヤミン・ピントーシユトウ監督「(9)の話。日本はとも良いチーム。どちらもハイテンポでリズムがあり、ドイツがチャンスはあった。全員の勝利。誰一人欠けても駄目だった。自分たち信じた

- 11日
- ▽反則(目)7(寺島、竹内、米山、岩原、小池)【7】5ア
 - レモス、オザル、レクレル、バルモス、バサレル、ミシュト数【目】46【16】14
 - 16【目】22【目】10【目】7
 - ドイツ【目】20【目】1【目】1【目】1
- 日
- 3【目】21【目】1【目】0【目】0
 - ▽得点(目)①定立 堀藤本 ②久保 ③三浦 ④山本 ⑤小野 ⑥三浦 ⑦山本 ⑧久保 ⑨三浦 ⑩山本
 - ▽最終順位①日本 ②カナダ ③ロシア ④オーストリア ⑤中国
 - ▽最終順位①日本 ②カナダ ③ロシア ④オーストリア ⑤中国
- 12日
- ▽反則(目)4(小池、細山田、浮田、堀)【目】3(ニックス、リオン)
 - ▽最終順位①日本 ②カナダ ③ロシア ④オーストリア ⑤中国

量でチームを支えた。試合が動いたのは第2ピリオド(P)。ゴール前の混戦から藤本もそこそこタックルが相手GKの股下を抜く技術の先制弾。その3分後のパワープレーで、DF細山田(カレッジ・インフェルノ)カナダのシュートを、ゴール裏から守る前に出て小野が胸トラップ。落とされたバックを間髪入れずにたたきこみ、2-0と突き放した。「練習通り。細山田とは、ゴールへの角度がなければ私に当たっていいからと事前に話合っていた」と振り返った。山中武司監督は「相手のFWを抑える役割も担いながら、決めるべきところでよく決めてくれた」と絶賛した。1点を返されたが、西武時代の盟友で1歳下の久保英恵が第3P14分、床塚留司（西武）がフェースオフからのバックを豪快にゴ

